

ウ 物流を強化する道路整備

圏央道は、人やモノの流れをスムーズにし、首都圏における交流・連携を強化するとともに、生産性の向上、企業立地の促進及び防災力の強化等に寄与する大変重要な道路です。



注1：県境～大栄 JCT間の4車線化は、令和7～8年度までに供用見込み。
 注2：大栄 JCT～松尾横芝 IC間は、令和8年度開通見込み。
 このうち大栄 JCT～国道296号 IC(仮称)間は1年程度前倒しでの開通見込み

物流施設等立地件数の推移（累計）



出典：企業立地動向調査（千葉県企業立地課）をもとに作成

千葉県の企業立地状況

圏央道沿線では、各都県において企業誘致施策を展開し、物流の集積が進んでいます。県内においても、令和5年の物流施設等の立地件数が67件となるなど、増加傾向が継続しています。また、平成29年3月に分譲を開始した「茂原にはる工業団地」や「袖ヶ浦椎の森工業団地」では、全区画が売却済みとなっています。これらのチャンスを活かし、活力あふれる千葉県を創るため、圏央道や関連道路の1日も早い全線開通を目指します。

エ 高規格道路へのアクセス道路の整備

現在整備が進められている圏央道や外環道へのアクセスを更に向上させるため、高規格道路の開通に合わせて、県がアクセス道路の整備を行っています。

一般県道船橋行徳線 妙典橋は、江戸川を渡河し、市川市高谷地区と妙典地区を結び、同市内の交通混雑の緩和を図る重要な路線であるとともに、外環道へのアクセスを向上させ、利用促進に寄与する橋梁です。
 平成31年3月26日に開通しました。



県道船橋行徳線 妙典橋（市川市）



国道410号 久留里馬来田バイパス (君津市)

国道410号(久留里馬来田バイパス)は南房総地域へつながり周辺地域の発展に大きく貢献する重要な道路であるとともに、圏央道・木更津東ICへのアクセスを向上させ、利用促進に寄与します。

延長15.7kmのうち、既に12.2kmは開通しており、残る3.5kmについても、令和6年3月25日に供用開始し、全線開通しました。

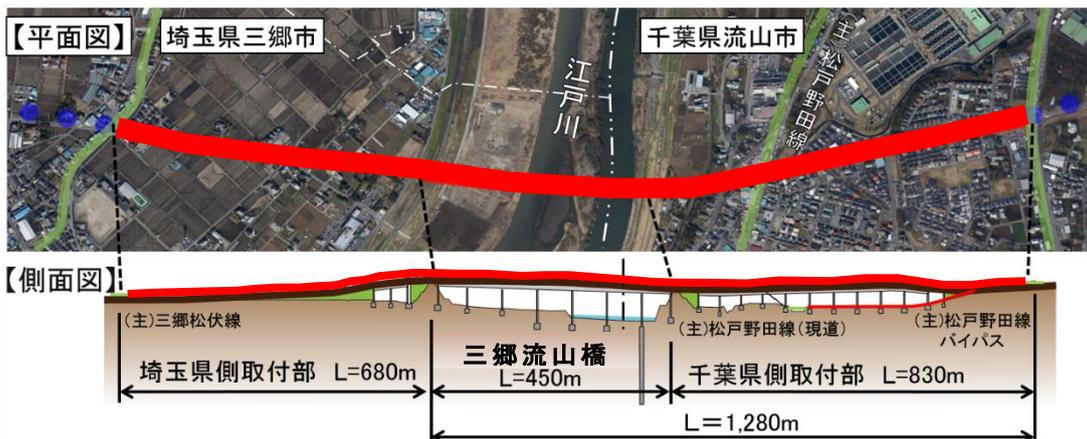
国道297号(松野バイパス)は、外房地域と千葉市方面を結ぶ幹線道路であり、緊急輸送道路(1次路線)に指定され、沿線市町における防災・観光面で大変重要な路線であることから、バイパス整備により、輸送路としての機能確保やアクセス性の向上に寄与します。

平成31年3月25日に全体区間6.7kmのうち1.9kmの区間が開通し、現在は、勝浦市白井久保から勝浦市松野までの2kmの区間について用地取得や橋梁工事を進めています。て用地取得を進めています。



国道297号 松野バイパス (勝浦市) 開通区間

主要地方道越谷流山線 三郷流山橋は、市街化の著しい東葛飾地域と埼玉県東部地域とを結び、流山橋に集中している交通を分散させる重要な道路であり、有料道路事業制度を活用して千葉県・埼玉県及び埼玉県道路公社が協同で事業を進め、令和5年11月26日に開通しました。



才 渋滞緩和による交通の円滑化



国道 296 号 八千代バイパス (八千代市)

国道 296 号 (八千代バイパス) は、国道 16 号と佐倉市等との間の交通の分散を図り、国道 296 号の八千代市域及び佐倉市域の交通渋滞の解消により、アクセス性の向上を図るためのバイパス整備です。
 延長 5.2km のうち、既に 3.7km は開通しており、残る 1.5km について、橋梁下部工や用地取得を進めています。

国道 356 号 (香取市～銚子市)



国道 356 号 小見川東庄バイパス (東庄町)

国道 356 号小見川東庄バイパスは、東関東道等と銚子市や東庄町方面とのアクセス強化を図る、東庄町新宿から香取市小見川までの 8.7km の道路であり、令和 6 年 3 月 19 日に東庄町新宿～笹川いまでの 3.95km が開通しました。



国道 356 号 銚子バイパス (銚子市)

国道 356 号銚子バイパスは、銚子市内の交通混雑の緩和や東関東道等へのアクセス強化を図るため、銚子市大橋町から小船木町までの 8.2km で整備を進めています。
 早期供用を目指し、全線に渡り、樋管工事や道路改良工事等を実施しています。平成 19 年 3 月 27 日に銚子市芦崎町～小船木町までの約 3.3km を開通しています。

カ 観光地へのアクセス時間の短縮

南房総地域では、早春及び夏期に観光の交通が集中しております。交通の分散化と観光地へのアクセス時間の短縮を図るため、高規格幹線道路等の整備や幅員狭小、急カーブ等の交通ボトルネックの解消を進めています。

館山自動車道は、東京湾沿岸部と南房総地域を結ぶ高規格道路であり、平成19年に全線供用開始しました。

近年、観光シーズン等における交通量の増加により、激しい渋滞が発生していることなどから、木更津南JCT～富津竹岡ICの4車線化事業を進め、富津中央IC～富津竹岡IC間が令和2年3月に4車線化運用が開始され、全線4車線となりました。



館山自動車道（富津市湊地区）

※令和2年3月 4車線化運用開始



富津館山道路（鋸南富山IC）

富津館山道路は、安全で円滑な交通の確保や観光振興・地域活性化に加えて防災力の向上に資する高規格道路であり、平成16年に全線供用開始しました。

しかしながら、暫定2車線であることから、災害等による通行止めリスク等の観点で課題があり、令和元年に全線が4車線化の優先整備区間として国に選定され、令和6年3月には、富津竹岡IC～鋸南保田ICまでが4車線化の準備調査箇所として高速道路会社に事業許可されました。県では早期の4車線化に向け都市計画及び環境影響評価の手続きを進めています。

主要地方道市原天津小湊線は、市原市から県南部を縦断し、鴨川市までを結ぶ重要な道路ですが、養老溪谷等の急峻な箇所が連続した区間を通過しており、沿道は土砂災害危険箇所が多く災害時に脆弱な道路となっています。

災害に強い安全・安心なルートを確保するため、道路拡幅やバイパス整備を進めていた鴨川市天津地先の延長2.7kmのうち、未整備となっていた0.7km区間（坂本工区）のバイパス工事が完了し、令和3年9月13日に開通しました。



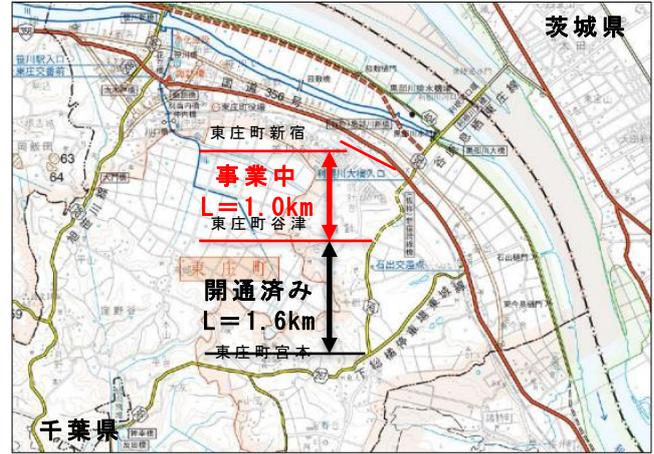
県道市原天津小湊線 坂本工区（鴨川市）
開通区間



県道鴨川保田線（鋸南町）
改良済区間

主要地方道鴨川保田線は、鋸南町と鴨川市を結び房総半島を東西に横断し、観光する際に利用される重要な道路です。狭隘区間の解消により、観光地へのアクセス性が向上し、観光振興が図られます。

現在、道路改良工事を実施しています。



県道下総橋停車場東城線（東庄町）

一般県道下総橋停車場東城線は、千葉県東総地域と茨城県神栖市を結び、千葉県東部の観光振興や地域経済の活性化などに必要な道路です。

現道は狭隘で屈曲していることから、アクセス性の改善、利便性の向上を図るため、東庄町新宿から宮本までの2.6kmのバイパス整備を進めており、これまでに谷津から宮本までの1.6kmを供用しています。

現在、残る1.0kmの早期供用を目指し、道路改良工事や擁壁工事を実施しています。

キ スマートインターチェンジ（スマートIC）の設置

スマートICは、ETC車専用のインターチェンジ（IC）で、通常のICに比べて、簡易な料金所の設置で済み、低コストで導入できます。

IC間隔の長いところに新たにICが設置されることで、「時間短縮」「災害時の代替ルート確保」「地域活性化」の効果が期待されます。



大網白里スマートIC



茂原長柄スマートIC

平成25年4月に開通した圏央道の東金・木更津間において、大網白里市小中地先の大網白里スマートICは平成31年3月24日に、茂原市国府関地先の茂原長柄スマートICは令和2年2月16日に開通しました。

また、館山自動車道君津パーキングエリア（PA）の君津PAスマートICは平成21年3月から、新空港自動車道の成田スマートICは平成21年4月に開通となっています。

ク 東京湾アクアラインの通行料金引下げの実施

東京湾アクアラインは、本県の課題である半島性を解消するものとして期待されていましたが、開通当初は、通行料金の割高感などから交通量が低迷し、期待された機能を十分に発揮しているとは言えませんでした。

このため、県では国の支援も得て、平成21年8月から平成26年3月まで、東京湾アクアラインの通行料金を普通車800円とするなど、全車種（ETC車）を対象とした大幅な料金引下げの社会実験を実施しました。平成26年4からは「アクアライン割引」として、ETC普通車800円などの通行料金引下げを継続しています。

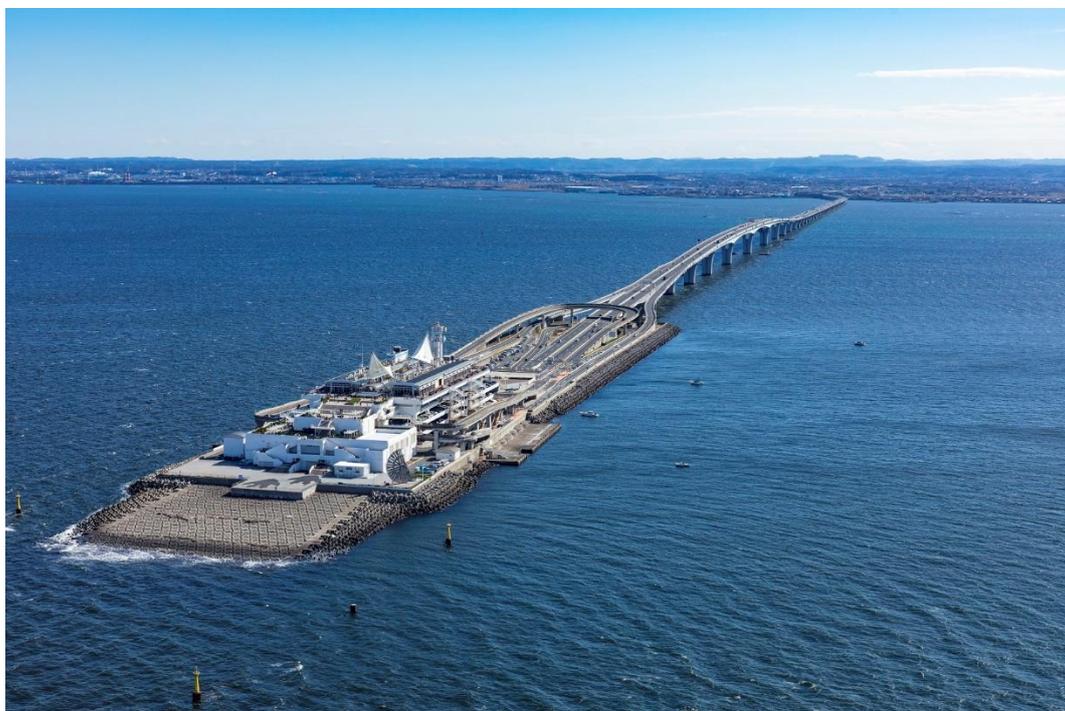
東京湾アクアラインの交通量（令和4年度）は、平成20年度に比べて約2.5倍に増加となっています。

平成26年4月から実施されている「アクアライン割引」により、首都圏における交流・連携の強化、物流の活性化、観光振興などが図られ、その経済波及効果（平成26年4月から平成28年9月までの2年6カ月間）は、首都圏全体で約1,155億円と推計され、首都圏の経済の活性化に大きく寄与しています。

県としては、今後、より一層の観光振興、企業立地の促進など、アクアラインを活用した地域づくりに取り組んでいきます。

○東京湾アクアラインの通行料金

	軽自動車等	普通車	中型車	大型車	特大車
ETC車割引料金	640円	800円	960円	1,320円	2,200円
通行料金（ETC車）	1,600円	1,960円	2,320円	3,130円	5,100円
通行料金（現金）	2,510円	3,140円	3,770円	5,190円	8,640円



東京湾アクアライン（木更津市）

ケ 東京湾アクアラインの時間帯別料金社会実験

東京湾アクアラインでは、土日・祝日の特定の時間帯に交通が集中することによって激しい混雑が発生しています。

国土交通省、千葉県及び東日本高速道路株式会社では、交通需要の偏在等による混雑の緩和を図ることを目的に『東京湾アクアライン交通円滑化対策検討会（座長：千葉県県土整備部道路計画課長）』を設置し、検討会における料金施策の議論を踏まえ、土日・祝日の上り線（木更津→川崎方面）において、特定の時間帯の割引料金を変動させるETC時間帯別料金の社会実験を実施しています。

【社会実験内容】

○対象区間：アクアライン 浮島 IC～木更津金田 IC
上り線（木更津→川崎方面）

○対象期間：令和5年7月22日（土曜日）～令和7年3月31日（月曜日）の
土日・祝日（1月2日、1月3日、振替休日を含む）

○対象車両：ETC車（全車種）

○ETC時間帯別料金

区分	平日	土日・祝日			
	上り線・下り線	上り線 (木更津→川崎)			下り線 (川崎→木更津)
	0時～24時	0時～13時	13時～20時	20時～24時	0時～24時
軽自動車等	640円	640円	960円	480円	640円
普通車	800円	800円	1,200円	600円	800円
中型車	960円	960円	1,440円	720円	960円
大型車	1,320円	1,320円	1,980円	990円	1,320円
特大車	2,200円	2,200円	3,300円	1,650円	2,200円



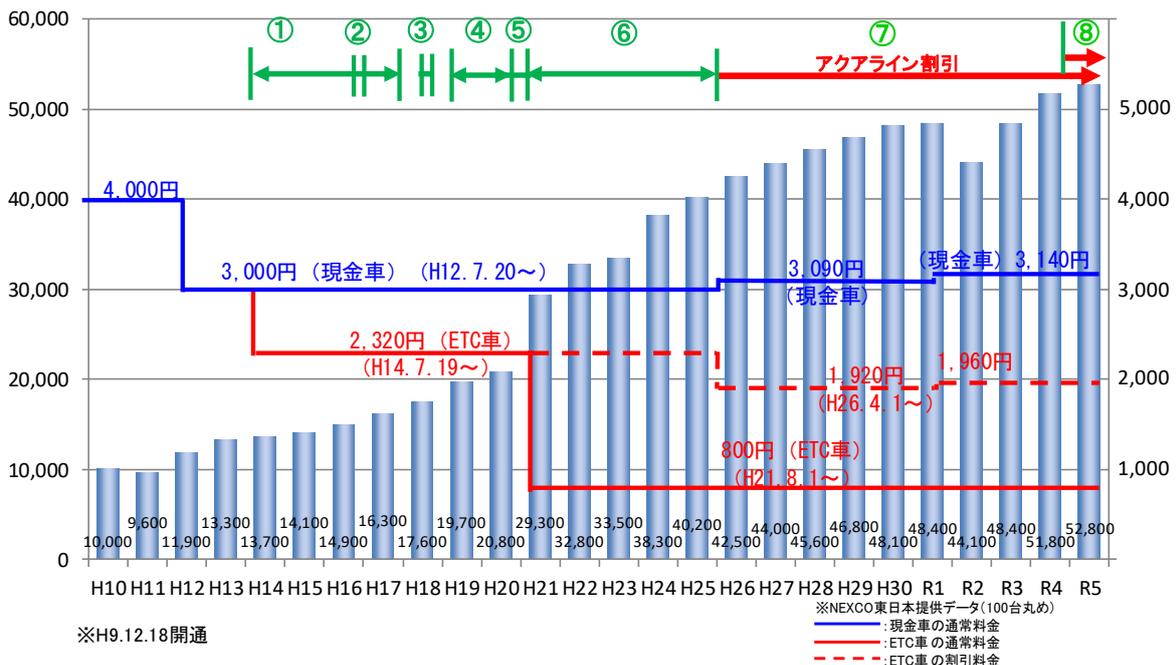
過去の社会実験等の経緯

※社会実験等の対象はETC車のみで実施。表中の料金は普通車

①	東京湾アクアライン利用促進社会実験（H14年度～H17年度）		
	期間:H14.7.19～H18.3.31	時間帯:終日	3,000円 ⇒ 2,320円
②	東京湾アクアライン利用促進キャンペーン（H17年度）		
	期間:H17.7.21～8.31	時間帯:平日昼間（6～20時）	2,320円 ⇒ 1,860円
		時間帯:夜間早朝（20～6時）	2,320円 ⇒ 1,160円
③	東京湾アクアラインETC割引社会実験（H18年度）		
	期間:H19.2.1～2.28	時間帯:朝・夕（6～10時、14～20時）	2,320円 ⇒ 1,620円
④	東京湾周辺地域の高速道路料金割引社会実験【ベイ割】（H19年度～H20年度）		
	【通勤時間帯割引】		
	期間:H19.8.20～9.24 H19.10.29～H21.3.27	時間帯:朝・夕（6～9時、17～20時）	3,000円 ⇒ 1,500円
	【環状道路への迂回誘導割引】 東関東道と千葉東金道路などの8つの対象ICから浮島ICまでの料金が「湾岸ルート+500円程度」に終日割引		
	期間:H19.9.25～H21.3.19	時間帯:終日	(例) 浮島IC～成田IC 4,670円 ⇒ 2,750円
⑤	「生活対策」における高速道路料金引下げ		
	【休日特別割引】		
	期間:H21.3.20～H23.6.19	時間帯:休日終日	2,320円 ⇒ 1,000円
⑥	東京湾アクアライン料金引下げ社会実験		
	【社会実験・全日全時間帯】		
	期間:H21.8.1～H26.3.31	時間帯:終日	2,320円 ⇒ 800円
⑦	アクアライン割引（H26年度～）		
	期間:H26.4.1～	時間帯:終日	1,920円 ⇒ 800円
	東京湾アクアラインETC時間帯別料金社会実験		
	【上り線（木更津→川崎）】	時間帯:土日・祝日（0～13時）	800円 ⇒ 800円
	⑧	期間:R5.7.22～R7.3.31	時間帯:土日・祝日（13～20時）
時間帯:土日・祝日（20～24時）			800円 ⇒ 600円

日平均交通量(台/日)

通行料金(円)



アクアライン交通量と過去の社会実験等における料金引き下げの変遷

社会資本の適正な維持管理

老朽化する社会インフラに対して、定期的な点検と適切な維持管理を行うことにより社会資本の長寿命化を進めます。

(1) 主な取組み

ア 既存施設の適正な維持管理の長寿命化

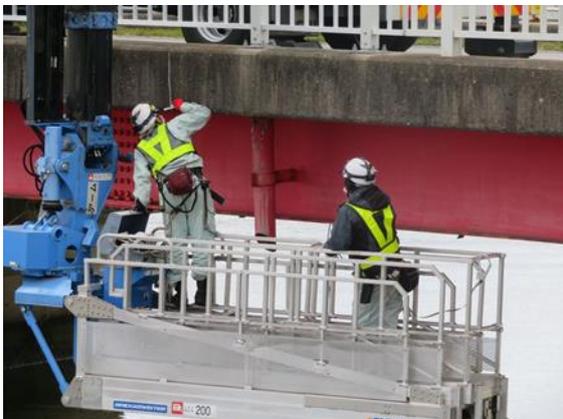
道路・河川・港湾・海岸・公園・下水道・県営住宅・庁舎・学校などの既存施設の維持管理に当たっては、中長期的な事業費の縮減や平準化を図るため、公共施設等総合管理計画に定める方針に基づいて、公共施設分野ごとの整備方針等を定めた個別施設計画を策定し、点検・評価・計画・補修のメンテナンスサイクルを着実に実施するとともに、これまでの事後的な修繕・更新から予防的な修繕へと転換し、各施設の長寿命化を推進します。

(2) その実現に向けて

ア 道路の老朽化対策

道路の老朽化対策として、平成24年12月の中央道笹子トンネルの天井板落下事故を機に、点検基準の位置付けを明確化するなど、維持管理・更新の実施に向けた法令が整備され、道路を安全・安心に利用できるよう、道路施設の5年に1回の近接目視による定期点検を実施し、必要に応じて損傷箇所の速やかな補修を実施しています。

また、今後高齢化する施設が急速に増加していくことから、予防保全型への修繕へと移行し、修繕費用の縮減と平準化を図るべく、橋梁、トンネル等の長寿命化修繕計画を策定し、効率的な修繕に取り組んでいます。



虎橋（白子町）

道路ストック点検（橋梁、トンネル等）では、近接目視による点検を実施し、健全性の診断を4段階で評価しています。

一般国道465号は、災害時には重要な役割を担う緊急輸送道路1次路線です。策定した修繕計画に基づき、剥落対策や漏水対策などの修繕工事を実施しています。



九十九トンネル（富津市）

イ 道路メンテナンス会議

平成26年度より、国・県・市町村等で千葉県道路メンテナンス会議を設置し、道路施設の維持管理を効率的に実施するため、各道路管理者間の情報交換及び相互に連絡調整に関する事項を定め、メンテナンスサイクルの構築及び長寿命化計画の作成とその計画に基づく修繕の円滑な実施を図っていきます。

令和5年度は令和5年8月31日にWeb会議にて開催しています。

ウ 千葉県道路アダプトプログラム

地域にふさわしい快適な道路環境づくりを目標に、地域のみなさんとの「協働・連携」による維持管理を進めていきたいと考えています。

そこで、地域のみなさんにボランティアで行っていただく道路の清掃・除草及び美化活動等について、『千葉県道路アダプトプログラム』により支援を行っています。

令和5年度は、74団体が活動しました。



道路の清掃・美化活動状況
国道296号（匝瑳市）

エ 道の相談室

道路利用者等から、道に関するあらゆる相談や意見等に対して、一度の問い合わせで、その対応や処理を関係機関で迅速に実施することを目的として、平成10年10月から国土交通省を中心に全国で順次開設されています。

本県においても平成12年4月20日から、開設しています。令和5年度は233件を受け付けました。

【道の相談室】 関東甲信地域の受付窓口

TEL 048-600-4970（平日9:30～17:00）

FAX 048-600-3737（平日9:30～17:00）

（国土交通省 関東地方整備局内）

【千葉県の道の相談室】

TEL 043-223-4970（平日9:00～17:00）

（千葉県県土整備部 道路環境課内）

人と環境にやさしい住まい・まちづくりの推進

県民の誰もが安全に安心して快適に暮らすことができる住まい・まちづくりを進めます。地球環境にやさしく利便性の高い魅力あふれるまちづくりを進めます。

(1) 主な取組み

ア 安全・安心で魅力あふれるまちづくり

都市部では、道路の慢性的な渋滞などに対処するため、街路事業による都市の骨格を形成する幹線道路の整備や踏切遮断による交通渋滞の軽減と鉄道によって分断される市街地の一体化を図る連続立体交差事業を推進し、交通の円滑化を図るとともに環境負荷の低減を図ります。

電柱や電線類が特に支障となる箇所における無電柱化の推進や、自転車道や自転車専用通行帯など自転車が安全で快適に通行できる環境の整備を推進するとともに、安全で快適な建築空間の創出や環境負荷低減の配慮などに優れた建築物の普及啓発に取り組みます。

イ バリアフリー化の推進

高齢者や障害のある人をはじめとする全ての人が、県内において安心して快適に過ごすことができるよう、鉄道駅のエレベーター等の整備、ノンステップバスや福祉タクシーの導入促進、県が管理する特定道路の歩道等における段差解消や視覚障害者誘導用ブロックの設置などにより、バリアフリー化を推進するとともに、「ちばバリアフリーマップ」などの充実を図ります。

ウ 環境・景観に配慮した整備・保全

環境にやさしい道づくりを進めるため、バイパス等の事業を行う際に周辺環境に配慮した整備を行うとともに、歩道部での透水性舗装の普及や、必要に応じて車道部での排水性舗装の実施に取り組みます。

良好な景観形成を推進するため、市町村の主体的な取組への支援や県民等の景観づくりへの参加を促進します。また、県が公共事業を実施するに当たっては景観へ配慮するとともに広域的な観点による良好な景観形成を進めます。

また、多様な主体による協働の下、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を生かした地域活性化、観光振興に寄与する、日本風景街道の一層の推進を図ります。

(2) その実現に向けて

ア 街路事業における都市の骨格を形成する幹線道路の整備

都市部における道路の慢性的な渋滞などに対処するため、都市の骨格を形成する幹線道路の整備を進めています。

流山市の都市計画道路3・3・2号新川南流山線は、つくばエクスプレス沿線の西平井・鱈ヶ崎地区とJR南流山駅周辺を結ぶ新たなアクセス道路として整備を進め、令和2年3月26日に開通しました。



(都) 新川南流山線 (流山市)

イ 連続立体交差事業の推進

市街地における道路と鉄道の平面交差は、踏切事故や踏切遮断による交通渋滞を引き起こしているばかりでなく、鉄道により市街地が分断され、地域の一体的発展の妨げとなることが多く見られます。

このような状況を解消するとともに、地域の一体化を図り、周辺市街地の整備を促すためには、数多くの踏切を同時に除却して鉄道を連続的に立体化する連続立体交差事業が効果的です。

野田市の東武野田線では、清水公園駅～梅郷駅間の約2.9kmにおいて、令和3年3月28日に高架化が完了し、現在、交差道路整備等を進めています。

また、鎌ヶ谷市の新京成線では、鎌ヶ谷大仏駅～くぬぎ山駅間の約3.3kmにおいて、令和元年12月1日に高架化が完了し、現在、側道整備等を進めています。



東武野田線（野田市）
高架化後

ウ 無電柱化の推進

交通安全、景観及び防災上で問題となっている電線や電柱を除去するため、電気・通信事業者と協力しながら、令和2年3月に策定した「千葉県無電柱化推進計画」に基づき無電柱化の推進を図ります。

無電柱化の手法としては、電線共同溝による地中化のほか、主要な通りの裏通り等に電線類を配置し主要な通りを無電柱化する裏配線や、無電柱化したい通りの脇道に電柱を配置しそこから引き込む電線を沿道家屋の軒下等に配置する軒下配線があります。



整備前



整備中

県道佐原山田線 香取市佐原イ

主要地方道佐原山田線の佐原市佐原イにおいて、電線共同溝による地中化を行い、災害にも強く利用者が安心して移動できる空間を目指し整備を進めています。

エ 自転車道の整備

自転車利用の増大に対応し、自転車交通の安全と円滑を確保するとともに、健康志向が強まる中で、サイクリング愛好者のみならず、多くの人々がスポーツ・レクリエーションとしてのサイクリングやハイキングによる健康の増進などに寄与することを目的として自転車道の整備を進めています。

県道我孫子流山自転車道線では、県立印旛手賀自然公園周辺の自然環境や田園風景に調和した約17kmの整備を実施しています。



県道我孫子流山自転車道線（柏市）

自転車活用推進計画（平成30年6月閣議決定）に基づき、自転車が安全・安心に利用できる環境づくりを進め、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的に、千葉県自転車活用推進計画（第1次計画：令和2年11月24日策定、第2次計画：令和6年3月22日改定）を策定しました。市町村の自転車ネットワーク計画及び自転車活用推進計画の策定を促進し、計画に位置付けられた路線から路面標示などの整備を進めているところです。

市や関係機関と連携しながら自転車通行環境の整備に取り組みます。

〈 整備前 〉



〈 整備後 〉



出典：内閣府ホームページ

自転車道整備事例

オ 特定道路のバリアフリー化の推進

幹線道路等における交通事故の削減のため、車両と歩行者が分離された安心な歩行空間の整備を進めています。

主要地方道千葉鎌ヶ谷松戸線の鎌ヶ谷市南初富では、歩道が狭いことから、車両と歩行者が分離された安全な歩行空間の整備を行っています。



県道千葉鎌ヶ谷松戸線（鎌ヶ谷市）

カ 鉄道駅アクセス道路の整備

移動の連続性を強化する視点から交通結節点、特に鉄道駅～幹線道路間の交通環境を改善することが重要です。そこで幹線道路から鉄道駅へのアクセス道路の整備を進めています。

JR旭駅前では、鉄道施設との利便性の向上を図るため、旭都市計画に基づき主要地方道旭停車場線の整備を行いました。



県道旭停車場線（旭市）

キ 日本風景街道の推進

道路やその周辺地域を舞台に、地元住民やNPOなどの多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源や個性を活かし、観光の振興や地域の活性化に寄与することを目的とする日本風景街道を推進しています。

南房総地域の館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町の3市1町を活動範囲とした「南房総・花海街道」や山武市、横芝光町を範囲とした「ロングビーチ癒しの九十九里街道」が日本風景街道に登録されています。



南房総・花海街道（館山市）

ク 市町村合併支援道路の整備



県道境杉戸線（野田市）

平成15年に平成の合併の第1号として誕生した野田市は、周囲を利根川・江戸川・利根運河に囲まれ、千葉県の北西部に位置しています。

県では、合併後の地域を支援するため野田市域と首都圏北部を結ぶ重要な道路である主要地方道境杉戸線のバイパス整備を進め、周辺地域の慢性的な渋滞の緩和や、歩行者や交通の安全性及び利便性の向上など、沿線の快適な生活環境の確保に努めています。現在、早期供用を目指し、道路改良工事等を実施しています。

平成 17 年の合併により誕生した鴨川市に位置する国道 128 号では、実入トンネルの老朽化や法面の崩落による通行止めの発生といった課題がありました。

県では、円滑な交通の確保及び安全性の向上を図るため、新たなトンネル（新実入トンネル）を含む実入バイパスを整備し令和元年 10 月 25 日に開通しました。



新実入トンネル（鴨川市）